

まとめの作り方（担当部分 A4用紙で1, 2枚+資

項目名 12point

日時、回数 10point

2011-04-19 基礎セミナーA 第1回

担当 窪田由紀

氏名 10point

ジェンダーって何？

一般に

生物学的な（生まれながらの）性差、性別

セックス

社会文化的な（つまり、後天的に形成された）性差、性別

ジェンダー

テーマ

家庭、学校、社会からの種々の情報、働きかけによって形成されたもの

前置き、補足説明
が必要な場合
以下、10.5point

テキスト該当箇所 or 出典

実際の「ジェンダー」の使われ方 4つの用法

（加藤秀一 2006 知らないと恥ずかしいジェンダー入門）

必要に応じて見出しを。

見出しは 1.
(1)
1)

1 性別そのもの

男というジェンダー、女というジェンダーという言い方

書類の性別欄 セックスが多いが、ジェンダーも、

2 自分の性別が何かという意識（ジェンダー・アイデンティティ、性自認

客観的性別 医師が赤ちゃんの性器を見て判断

主観的性別 自分を男と考えるか、女と考えるかという主観的判断

=ジェンダー・アイデンティティ、性自認

→最近では本人が男であることを望むか、女であることを望むかが重視

性同一性障害：生物学的性別（セックス）と主観的性別（ジェンダー・アイデンティティ）にず

れがある」状態 精神的苦痛があり、社会生活にも支障をきたしている状態

→性別は2つしかないのか？

教科書以外の図表は、別紙にコピーして貼付

=、≠や
→等を用いて
わかりやすく
主主項

できるだけ体言止め
×重視される
主項

客観的な性別ですら、

性分化のプロセス（別紙） 染色体、ホルモン、外性器、内性器 →半陰陽

主観的な性別 「男にも女にもなじめない感覚を持つ人たち」の存在

3 社会文化的に作られた男女差（ジェンダー差、性差）

男女の興味関心の差、得意・不得意の差 ←ベイベーXの実験

* 性差 個々の男女の差ではなく、男性の集団の特性と女性の集団の特性の差

4 社会文化的に作られた男女別の役割（ジェンダー役割、性役割）

男性は～すべき、女性は～すべき

↓↓

男は論理的である（← 3 性差についての記述 客観的事実に基づくかどうかは別）

↓

論理的な特性を持っているのが男らしい

↓

男は（論理的思考を必要とする）指導的な役割が向いている、役割を取るべきだ（4 役割）

5 まとめ

ジェンダー概念の多様性→安易なカテゴリー化の危険性